ワールド・フレンドシップ・センター機関紙
2023 年 第163号

友 Yu-Ai 愛

理事長: 立花志瑞雄
館長: マシュー・ベイトマン＆マラカイ・ネルソン

〒733-0032 広島市西区東観音町8-10
TEL 082-503-3191 FAX 082-503-3179
Email: office@wfchiroshima.org Website: www.wfchiroshima.org

Facebook

理事長あいさつ 立花志瑞雄 2

ゲストについての振り返り マラカイ・ネルソン 3

韓国PAX 2023：2023年5月1日～6日 ジム・ロナルド 5

PAX2023から帰ってきました 韓国PAX参加者 7

フレンズデー2023 山根美智子 11

広島での学習体験 ゾーイ・ホブディ 11

IWUインターンシップの振り返り2023年夏 ハナ・グエン 13

女学院から迎えたインターン生 マシュー・ベイトマン 14

追悼の日を振り返る： WFCの8月6日行事 マシュー・ベイトマン 15

米国PAX 2023: 2023年10月5日～24日

- **平和を育むことはとても良いことです** ロジャー・エドマーク 17
- **米国オレゴンで語られたお話** ジョアン＆ラリー・シムズ 18
- **2023 PAX 報告書** 堀江壮 18
- **2023年のアメリカPAXを振り返って** 岡原民幸 19
- **2023 PAX 報告書** 大澤優子 21
- **2023 PAX 報告書** 砂脇真理子 21

2023年度国際フェスタ 三村庸子 23

2023年「イスラエル-パレスチナ危機の衝撃」とWFC 服部淳子 23

シュモーハウスを訪れて 兼綱寿美子 24

ホリデーパーティー 清水美喜子 25

「被爆者の肖像：80年を記憶」プロジェクトへの協力 マシュー・ベイトマン 26

第3期 平和公園ガイド学習会 清水美喜子& マシュー・ベイトマン 27

翻訳クラス 畑本ひさの＆マシュー・ベイトマン 27

ワールド・フレンドシップ・センターについての振り返り ロン・クライン 28

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

理事長あいさつ

立花志瑞雄
WFC理事長

２０２３年度、私たちはどのような世界情勢の中で、生きてきたのでしょうか？　人の往来を遮断する新型コロナウイルス感染症への対応の時期は終わり、世界的な規模で、人が往来するようになりました。世界の様々な場所で、自然災害が発生し、地球温暖化の進行、環境破壊は続きました。

広島にとって、一番大きな出来事は、Ｇ７サミットだったでしょう。私たちWFCも市民の立場から、市民の声を届けるために、市民サミットの開催に関わりました。しかし、Ｇ７サミットでは、核抑止を前提とする「核軍縮に関するＧ７首脳広島ビジョン」が発出され、広島・長崎の願いからかけ離れた政治ショーに終わりました。

その後のNPT再検討会議の準備委員会、第二回核兵器禁止条約締約国会議が開かれ、被爆者や若者が、核廃絶を訴え続けました。しかし、ウクライナやパレスチナでの戦禍の中、核兵器使用の可能性も危惧されるという暗い一年でした。

人と人が出会い、被爆者の経験を聞き、平和作りの実践から学び、話し合い、交流する。２０２３年度、新型コロナウイルス感染拡大で、中断していた対面でのアメリカPAX（平和使節交換プログラム）、韓国PAXが再開されました。

今回の友愛では、PAXの報告や８月６日行事をはじめとする幅広い草根のレベルのWFCの活動について記事を読んでいただけます。すべての活動の根底には、「一期一会が平和を築く」とモットーが流れています。

みなさんにとって今回の「友愛」が、もっとWFＣの活動を知っていただく機会となり、みなさんの平和作りのヒントとなることを願っています。そして、引き続き、みなさんからのご支援、ご協力をいただければ幸いです。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

ゲストについての振り返り

マラカイ・ネルソン

WFCは、長い年月に亘って世界中からゲストや訪問者を受け入れています。被爆者の声は国際的にも重要であり、WFCでは平和研修を通じて彼らのメッセージを広めることに尽力しています。被爆証言やガイドの調整を手伝う方法を学んだり、新しい平和研修プログラム「コーヒーアワー」を始めることができたのは、マシューと私にとって大変光栄でした。被爆者やゲストの方々と関わる際に必要な知識を、私たちに根気強く指導してくれたスタッフやボランティアの方々には本当に感謝しています。

WFCの平和研修に関連して私が持ったいくつかの印象について書きたいと思います。この記事が、あなた自身とWFCの歴史を思い起こす一助となり、より多くの人がWFCを訪れ、研修に参加するよう、周りの方にお声かけしてくださることを願っています。

被爆証言は、最も重要でタイムリーなプログラムです。被爆者一人ひとりが、何度もこのトラウマを思い起こし、ゲストのさまざまな質問に答えようとする勇気とレジリエンスには、館長として仕事をすればするほど驚くものがあります。私たちは、これらの証言が、聞き手の共感を呼ぶことを目の当たりにしてきました。ある人は、その後の質疑応答で多くの質問を投げかけ、またある人は、今聞いたことを熟考するために帰る前に簡単な感謝の言葉を伝え、さらにまたある人は、後に感想を共有するためにメールでフォローアップしたりします。

ガイドは、ゲストが広島市と広島市民が原爆の惨禍をどのように慰霊してきたかを学ぶためのプログラムを提供しています：平和公園、被爆者それぞれのグループの記念碑（動員学生の碑など）、影響力のある活動家（バーバラ・レイノルズやマルセル・ジュノー博士など）、被爆者の声（原民喜の碑など）、そして広島の平和への願い（平和の鐘など）などがあります。被爆樹木ツアーは、自然と広島の立ち直る力を象徴しており、シュモーハウスツアーは、自国内外にかかわらず、人間のニーズに答える共感の力を象徴しています。

コーヒーアワーは、ゲストの方がWFCの歴史がどのように広島や世界に関連しているかに触れる機会です。WFC創設者と団体の歴史を振り返るにつれ、私自身も今までの歩みを考え、自分の未来をどう形作っていくかを考えるよう促されます。

これら研修を通じて、観光客、映画制作者、コミュニティリーダー、学生、教育者、ビジネスや政府のリーダーなど、さまざまな人々に出会いました。日本、アメリカ、フランス、シンガポール、ドイツ、北アイルランド、スイス、カナダ、デンマーク、イスラエル、イギリスからの旅行者やグループを迎えましたが、さらに多くの国がこのリストに加わることを期待しています。訪問された方々皆さん、どのような人生を歩んできたかに関係なく、平和についてもっと知りたい、どうすれば平和を追求できるかを学びたいという思いをもって来られます。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

2023年の初めの数か月は、何年もの間WFCを訪れることを計画していたにも関わらず、コロナウイルスのために訪問できなかったゲストに会うことが出来たのは、特に心温まるものでした。このようなゲストから届いた「この旅を長い間待ち望んでいました！」というメッセージには喜びを感じました。旅行することが出来なかった3年もの長い時間を経てもWFCを訪れたいという気持ちが衰えることのなかったゲストの方にようやく会うことができて、とても励みになりました。

時には、訪問直前の連絡で、被爆者やボランティアのスケジュールと合わなかったりすることがあります。しかし、そのような人々とも意味のあるつながりをもつ機会もありました：ある映画製作者2名は、第五福竜丸の話を映画化しようとしています。ある旅行者が彼らにワールド・フレンドシップ・センターを紹介してくれ、立ち寄ってくれたので、共に笑い、物語を共有し、また、WFCが彼らのプロジェクトにどのように役立つことができるかなどを話し合う時間をもちました。私たちは彼らの作品が出来上がるのを楽しみにしています！

応援をどうぞよろしくお願いいたします。

WFCの平和活動は、皆さまからの会費と寄付、
そして様々なボランティア活動によって
支えられております。
https://www.wfchiroshima.org/english/support-us/

WFCにゲストをお迎えすることは、私たち一人一人が広島やWFCからどのような影響を受けたかを問う機会でもあります。この経験を友人や家族、地域社会とどのように共有できるでしょうか。

被爆者は年を取ってきており、彼らから直接話を聴き、彼らの体験から学ぶ時間は短くなっています。彼らの証言を通じて平和を育む必要性はこれまで以上に緊急を要しているように感じます。

もしかしたら、あなたはまだ平和公園、被爆樹木、シュモーハウスのガイドを受けていないかもしれません。広島出身の方で、さらに歴史を学び、英語を向上させたい方のために、WFCは平和公園のガイドを提供するボランティアを養成し、平和研修としてガイドを末長く続けるための、ガイド学習プログラムもあります。

最後に、WFCとバーバラ・レイノルズの歴史を学び、マシューと私とおしゃべりするために、いつでもコーヒーを飲みに立ち寄ってください。WFCの歴史には、深く掘り下げて学ぶことができる多くの教訓があります。

最後に、多くの人にWFCの活動を広く知ってもらうために、あなたの助けが必要です。もしあなたが被爆者の話やWFCのボランティアによるガイドを受けて感じることがあったなら、WFCや、WFCの平和研修のことを、ぜひお友達に紹介してください。WFCのプログラムについて日本、また、世界中のお友達と分かち合うことで「友だち一人ずつ、平和を育んでいく」ための一端を皆さんも担うことが出来ます。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

韓国PAX 2023：2023年5月1日～6日

ジム・ロナルド

今年の韓国PAXチームは、パク・クンジョン、リュ・フン、4歳のダン（家族）、ユ・ジソク、イ・ヒョンウ（最初の韓国PAXに参加したブルース・リー）、パク・ジウォン、キム・ソヨン、チョン・ハナで構成された。

韓国PAXは、8人の参加者がワールド・フレンドシップ・センターの居間に集まるところから始まり、館長のマラカイとマシューがWFCの簡単な紹介をし、平和人形の話をし、参加者一人一人に平和人形を渡した。

近くのレストラン「暖流」では、歓迎の寿司と天ぷらの夕食を囲みながら、お互いの紹介をした。その後参加者は、それぞれのホストファミリー（木戸先生、松本滋恵さん、山根美智子さん、ジム・ロナルドさん）宅へ移動した。

翌日は広島キリスト教社会館とデイケア施設KARINの訪問から始まった。参加者たちはあん・くんじゅさんから広島の高齢の韓国人コミュニティについて、また昨年亡くなった在日コリアンの被爆者、イ・ジョングンさんについて話を聞いた。昼食後、一行は韓国基督教広島教会を訪れ、中江洋一牧師から教会の歴史や在日韓国・朝鮮人の体験、韓国人被爆者の来日治療や韓国人被爆者慰霊碑建立に深く関わった金牧師について話を聞いた。

その後、一行は旧陸軍被服支廠で、学徒動員で働かされた被爆者の切明千枝子さんの出迎えを受けた。

切明さんは、市内に数多くある軍事施設のひとつである被服支廠の歴史について語った。地元の集会所で、切明さんは被服支廠の近くに住んでいたこと、学校で同級生だった朝鮮人の子どもたちのこと、被爆者としての体験などを語った。最後にお好み焼きを食べてその日は終わった。

５月3日、原爆ドームを見下ろすエソール広島で、ユ・ジソクさんとイ・ヒョンウさんを講師に迎え、修復的正義に関するワークショップが開催された。約30人が参加し、修復的正義とは何か、その役割を学ぶだけでなく、その効果を実感する機会となった。 通訳は李京子さんが務めた。エソールのバルコニーで昼食をとった後、韓国人PAX参加者、日本人、外国人、若い人、年配の人が混ざったグループに分かれて、「親睦と討論」の時間を持ちました。私たちは自分自身について、自国について、そしていくつかの困難な問題について語り合った。

5月4日の午前中は、混雑していた平和記念資料館で過ごした。参加者たちは混雑にもかかわらず、時間をかけて展示物を読み、理解を深めた。その後、三村庸子さんと池田美穂さんの案内で平和公園を見学した。昼食は一緒にラーメンを食べ、その後、被爆樹木について学んだ後、袋町小学校の小さな平和資料館に向かった。そこには、被爆者が黒い、すすで覆われた壁に書き残した家族への伝言が残されていた。そこから本通まで歩き、買い物をしたりくつろいだりした後、縮景園に向かった。そこでのガイドは山縣八寿子さんだった。池のほとりの東屋で、リラックスし、思いにふけり、語り合う時間も必要だった。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

５月5日は、ホストファミリーや茂津目さん、美怜さん、立花さんに連れられて宮島を訪れる日だった。一行は混雑を避けて町屋通りを歩き、伝統的な日本家屋や神社仏閣を楽しみ、海を見渡せる公園で昼食をとりながら語り合った。昼食後、ある者は広島市内に向かい、美術館やショップで時間を過ごし、またある者はゆっくりと歩きながら自然やカフェを楽しんだ。

その間に、一行の荷物は三滝グリーンチャペルのスマイル館に移され、そこで最後の夜を過ごすことになった。みんなが市内や宮島から直接到着すると、マラカイとマシューはコーヒーを用意し、私たちはケーキとクッキーを用意した。コーヒーを楽しみながら、マラカイがレイノルズ一家の活動や平和構築への道のり、そしてバーバラのワールド・フレンドシップ・センターの設立について話してくれた。

次に、韓国の友人たちが特別な韓国料理を用意してくれた。最初は、彼らも、そして私たちの何人かも、一種のポットラックディナーだと思っていたのだが、彼らが作ったものしか食べられないとわかると、メニューを追加し、買い物をし、キッチンで素晴らしいパフォーマンスを見せてくれた！午後7時過ぎ、20人近くの私たちは、おいしい韓国料理が並べられた2つのテーブルに着席し、ゆっくりとディナーを楽しんだ。パーティーが終わり、スマイル館で韓国の友人たちと別れたのは午後9時頃だった。彼らは長い一日で疲れきっていたのだろうが、中には午前3時頃まで話し込んでいた人もいたらしい！

韓国PAXの最後は、広島駅で韓国の友人たちを見送り、ほとんどの友人たちは博多へ向かい、福岡空港から韓国へ向かった。

ホストファミリーの振り返り

イ・ヒョンウ（ブルース・リー）は山根美智子夫妻の家にホームステイし、とても仲良くなった！「ブルース・リーとの再会で、韓国をより身近に感じ、この韓国PAXの意義をより強く実感しました。」と彼女は書いている。彼は、チャールズ・サットンさんのアジア基金により、２００３年に韓国から初めて訪れた平和使節の一人でした。キム・ソヨンとチョン・ハナは、松本滋恵の家に滞在した。「2人ともクリスチャンなので、私にとっては神の家族の一員です。5日間娘や孫と一緒にいるような気分でした。」木戸マサコはユ・ジソクとパク・ジウォンを受け入れた。彼らは日本文化を体験し、韓国文化についても説明した。ジム・ロナルドと彼の家族は、クンジョン、フン、そして小さなダニーを受け入れた。ジムの娘グレースとダンは一緒に遊ぶのが大好きで、大人たちは一緒に話をすることをとても楽しんだ。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

PAX2023から帰ってきました

RJジャーナル2023年6月・第11巻から（許可を得て掲載）

平和使節交換プログラム（PAX）の紹介

韓国のコリア・アナバプティスト・センター（KAC）と日本のワールド・フレンドシップ・センター（WFC）は、被害者と加害者の視点から両国の歴史を見つめ、平和を推進する交流プログラムとして、2003年に平和使節交換プログラム（PAX）を開始しました。交流訪問を通じて、韓国のチームは広島原爆の地を訪れて被爆者と会い、日本のチームは「ナヌムの家」「少女像前水曜集会」「西大門刑務所」「非武装地帯」などを訪れ、それぞれホームステイも体験します。コロナ渦のため３年間の中断を経て、今年（2023年度）、韓国チームが日本を訪問する形でプログラムが再開されました。PAXは両国の歴史を理解し、平和の大切さを実感し、人と人との交流やおもてなしを通して、対立を乗り越える可能性を探る試みです。

平和はどこにでもある（パク・クンジュン）

「お母さん、小学校に原爆が落ちたんだよね？」

広島には原爆投下後も保存されている建物があり、その小学校を訪れたときのことです。その小学校に通っていた子どもたちの話を聞き、現在は資料館となっているその空間を非公式に見学してきたところでした。「爆弾が落ちたんだ」と4歳児は、ある種の悲壮感を漂わせながら言いました。大人のスケジュールどおりに動くことに退屈していた子どもの口から出たので、更に驚きました。「そうなんだ」ダニーは続けました。「僕より少し年上のお兄ちゃんたちが、爆弾が落ちてきて怪我をしたんだ。お母さんも、他の大人たちも、誰も想像していなかったことなんだ。」

忘れたい記憶、1945年8月6日

６日間という短い旅は、ワールド・フレンドシップ・センターの日本人ホストの素晴らしいもてなしと過密スケジュールのもとに行われました。その中で日本人の被爆者に会い、あの日の話を聞く機会もありました。何十年も経った今でも、非常に鮮明に証言してくれましたが、その後は、彼の顔に刻まれたシワが、一層思いに沈んだように感じられました。自らの死まであとわずかとなった被爆者たちが、彼らの体験話をそのままで終わらせることなく、次世代に語り継ぎ、やがて平和への道を切り開くために語り部を養成しようとする努力は、よりいっそう素晴らしく感じられます。

痛みと平和が共存するヒロシマ

広島を訪れると、他の都市と違って「平和」という言葉が多用されていることに気づくでしょう。平和…通り、平和公園等々と。おそらく彼らが覚えておきたいのは、あの恐ろしい日ではなく、その後に続く痛みに耐え、克服し、やがて平和を生み出すという希望なのでしょう。日本に住むことを余儀なくされた多くの朝鮮人、その多くは広島に住み、原爆を受けましたが、祖国が恋しかったに違いありません。見知らぬ土地で消えない傷跡を残しながら生き、死んでいった原爆犠牲者たちは、彼らの記念碑がある平和公園とともに、長く記憶に残ることになるでしょう。

"お母さん、一番早い新幹線に乗るんだよね、そうだよね？"

平和旅行を終え、私は韓国に戻りました。数日後、子供に旅行のことを聞くと、新幹線に乗ったことしか話しませんでした。私も彼のようになりたいと思いながら、あの日の記憶を風化させないための多くの人々の努力を目のあたりにし、子どもたちや近所の人たちの前で、今の自分の生き方を恥じてはいけないと感じています。平和という言葉だけでは物足りませんが、戦争を終わらせ、核戦争に反対する世界中の多くの人々の努力にたいして、励ましと支援を送ります。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

「あなたのお陰で、私はある」（ジョン・ハナ）

韓国系アメリカ人が広島訪問をどのように消化するのか？この質問が矛盾していると思わないなら、広島の歴史をもっと深く見る必要があります。1945年8月6日の朝、8時15分に広島市に原子爆弾が落ち、瞬時に約7万人の命が奪われました。日付、時間、分、秒までの具体的なデータは、ビデオや統計を通じて得られます。この種の虐殺は人類史上初めてで、アメリカによって入念に記録され、実行されました。データは何十万人もの死を伴う科学実験のように記録されています。そしてその日のすぐ後、1910年からの日本の占領から1945年8月15日に韓国は自由を宣言しました。さて、韓国系アメリカ人が広島訪問をどのように消化するのでしょうか？私の活気に満ちたアイデンティティを持って、韓国とアメリカの両方と深く関わる場所を訪れることはさらなる挑戦となりました。私はアメリカでほとんどの教育を受けましたが、広島の話を聞くことはまだありません。これはおそらく間違いではなかったでしょう。私は広島の街を韓国や日本の人々とともに6日間歩きました。一つの都市に与えられたこの痛みは、控えめに言っても、私が完全に理解することはできないかもしれないし、決して理解できないかもしれないと私には明らかでした。しかし、北東アジア地域とそのさらなる隣国との関係についてもっと聞くにつれて、この痛みが多くの国々、もしくはすべての国々からの類似の物語によって共鳴されていることに気づきました。そして複雑に、征服者はかつて被害者であり、その逆もまた真実です。このジレンマに対する私の考えの短く不完全な反映ではありますが、新しい友達との時間の否定できない贈り物について考えを巡らせる必要があります：-私たちを見たことのない家族のように迎えてくれた明るい顔と興奮；-毎朝6時に起きて朝食を作り、きちんと整理された天井のキャビネットに収められた彼女のフォトアルバムに収集された話を共有してくれたホストのおもてなし；-言語の壁を超えたホストの親切と配慮；-共有した食事と会話。最後に、過去を焦らず、真摯に向き合おうと決意して締めくくりたいと思います。そして、南アフリカのアパルトヘイトに対抗するために使われた重要な言葉、ubuntu（ウブントゥ）を思い出したいと思います。「あなたのお陰で、私はある」

20年後、再びヒロシマへ（ヒョンウ・イ（ブルース・リー））

初めてPAXに参加したのは2003年で、PAXがスタートした最初の年でもありました。それから20年経った今年、再び広島を訪れました。長い年月の間に忘れ去られ、埋もれていた20年前のPAXの記憶が、今回の訪問で蘇り、ぼやけていた情景が鮮明になりました。到着初日に韓国と日本のPAXチームが初めて顔を合わせたワールド・フレンドシップ・センター（WFC）の部屋；70代、80代になった今も変わらず熱心なPAX活動家であるWFCのメンバーたち；広島の澄み切った空と点在する原爆の爪跡……。戦争の加害者としてではなく、原爆の被害者としての日本に焦点を当てた広島平和記念資料館の展示は、当時も今も違和感がありますが、結局のところ、戦争が解決策ではないという事実を振り返る時間となりました。PAXは長年にわたる交流プログラムなので、WFCとKOPIの間には信頼関係があり、プログラムも充実しておりましたが、今年際立っていたのは3日目の終日ワークショップでした。午前中は参加者に修復的正義について紹介し、午後は小グループに分かれて韓日関係について個人的な分かち合いや軽い議論を行うことが出来ました。ワークショップでは、修復的正義が国境を越え、誰にでも適用される正義のパラダイムであることが確認され、歴史教育の重要性や歴史的無知の危険性を改めて考えるきっかけとなりました。５泊６日の毎日は、過酷な体験でしたが、ホームステイ先のもてなしとサービスで、今年のPAXはさらにPAXらしかったです。大人たちのためのスケジュールを粘り強くこなしてくれた4歳のダン君、通訳として頑張ってくれたハナさんとジウォンに感謝します。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

戦争の記憶とおもてなし（パク・ジウォン）

５月1日から5月6日まで、PAXプログラムに参加するため５泊６日の日程で広島に滞在しました。PAXプログラムでは、広島のコミュニティや在日韓国人の生活について研究している韓国人研究者、離散した韓国人に奉仕するために活動している牧師、平和について熱く語る人々、修復的正義について学びに来た多くの人々など、多くの人々に出会い、刺激を受け、感動しました。広島の「おばあちゃん」被爆者の証言や、平和記念公園・平和記念資料館の訪問も、戦争と原爆による惨状を直接体験し、戦争は恐ろしいものであり、二度と起こしてはならないという語りかけに共鳴した私にとっては、非常に印象深いものでした。戦時中、若い学生が外部労働力として大量に徴用され、その結果、原爆の被害を大きく受けたという話や、今は高齢の女性が被爆者として感じた罪悪感は、戦争によって最も被害を受けるのは弱者であるという暴力の構造を思い起こさせました。平和記念資料館の展示は、相変わらず日本を被害者として強調する視点からのものであり、違和感を覚えましたが、祖国を失った時代に迫害と苦しみを味わった人々を韓国ではどのように記憶し、慰め、その痛ましい歴史の責任をどのように負っているのかを改めて考えさせられました。韓国と日本の歴史的、政治的対立は依然として複雑です。しかし、国家レベルで責任を持ち、健全な形で問題の解決に取り組むとともに、民間レベルでは、お互いの話に真摯に耳を傾け、共感し、個人対個人で学び合う交流を続けていくことが大切だと思います。また、そのような話を忘れず、次の世代に伝えていくために、私たちはどのような努力をすべきか、どのように連帯すべきかを考えさせられます。何よりも、WFCのホストファミリーの年長者たちが示してくれた温かいおもてなしは忘れがたいものです。高齢であるにもかかわらず、熱心にさまざまな活動に取り組み、他人を助けている姿を見て、自然と心が開かれ、謙虚な気持ちになりました。平和と和解は、人々が集まって食事をし、話をし、一緒に時間を過ごし、人間関係を築くことから始まること、そして心の壁を取り払うことが大切であることを実感した貴重な時間でした。WFCのホストや日本からの活動家に加え、韓国で修復的正義のために活動し、平和に強い関心を持つ韓国のPAXチームメンバーと出会い、交流できたことも有意義でした。

私が出会ったヒロシマ（キム・ソヨン）

まず最初に、PAXチームの豊かで深い奉仕と準備に感謝したいと思います。あまり知らなかった原爆被害者の日常生活や歴史を知ることができ、とても有意義でした。ホストファミリーの松本おばあちゃんは、原爆投下当時3歳だったと話してくれました。当時の状況や環境は、言葉が通じないため詳しくはわかりませんでしたが、おばあちゃんの気持ちが伝わってきました。このようなプログラムでは、結局、出会った人たちが一番心に残るような気がします。松本おばあちゃんは、私にとってそんな存在でした。80歳という年齢で、すべてのスケジュールをこなしながら、自分にとって大切なこと、意味のあることに携わることができ、人にとても優しく、私は彼女を本当に尊敬し、彼女のようになりたいと思いました。PAXプログラムの間、私は自分の人生にどんな意味や価値を置くべきか、自分の道をどう歩むべきかについていろいろ考えました。原爆犠牲者の方々のお話を聞くことができたのは、とても特別な時間でした。歴史の中心にいた人たちと出会い、話を聞き、痛みを分かち合える貴重な機会でもありました。様々な体験やプログラムを通して、結局、戦争は誰も逃れることのできない痛みや苦しみを生み出し、誰もそれを責めることはできないのだということを実感しました。PAXのプログラムを多くの人が体験し、共有できることを願い、価値ある活動をしている人たちを応援し、祈り続けたいと思います。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

フレンズデー2023

山根美智子

WFCは６月１７日に広島市留学生会館にて、フレンズデーを開催しました。

まずはワーキンググループ（マシュー，マラカイ，車地、山地、山根）を立ち上げ、２０２３年１月に活動を開始しました。目的は、“楽しく親睦を深めて、平和を築くため”で、「新しい人々と知り合う、コミュニティの事を知る、平和を広める、楽しくゲームをする」ということでした。

当日の役割は、車地さんと私は受付で参加者への歓迎の挨拶をすることでした。崇徳高校の新聞部の学生、女学院大学のインターン生、若い台湾の女性や幅広い層の参加者があったのは喜ばしい事でした。子供連れのお父さんが、退屈して途中で帰られましたが、子供にも喜んでもらえるようなプログラムでなかったのは、反省するべきでした。

マシューの開会の挨拶に続き、WFCのビデオ「ワールド・フレンドシップ・センター未来に向けて」（２０１４年１１月４日完成版）の反応は良く、今後のWFCの宣伝活動にも使えると思いました。参加者のほとんど半数近くがWFCに関わったことがない人だったので、バーバラ・レイノルズの事を知ってもらうには、とても役に立つビデオだと思いました。

グループに分かれて、相手をよく知るための質問として、「どのくらい長く広島に住んでいるか」、「最も好きな趣味を二つ挙げてください」などを提案したのは、良い方法でした。スライドを使っての英語クラスの紹介、ジャンケンポンやしりとり、折り紙で鶴を折るなどの楽しいゲームは、皆の心を一つにして楽しい時間となりました。マラカイと岡原民幸さんによるラジオ体操は、参加者に好評でした。最後に平和や友情に関する好きな言葉を大きな紙に書きました。私は “To foster peace, one friend at a time” と書きました。MCから参加者への謝辞を述べ、次の大きなイベントは８月６日のイベントで、また会えることを楽しみにしていると締めくくり閉会しました。田中ゆき子さんの平和人形は、お土産に喜ばれました。

広島での学習体験

ゾーイ・ホブディ
イリノイ・ウェズリアン大学

日本で過ごした時間は私にとって非常に影響があるものでした。このような機会をもてたことに感謝しています。広島への旅は、学問的にも個人的にも、私にとって新たな学びとなりました。私は広島の過去と現在の歴史の深さをさらに発見しました。私の二つ目の発見は、自分自身、私の将来、個人的な目標について意識的に見えたものでした。

学問の旅

ワールド・フレンドシップ・センター(WFC) でのインターン体験は、日本に来る前には知らなかった情報を教えてくれました。政治学と国際研究を学ぶ学生として、戦後のアメリカの外交政策と、原爆後に広島市がどのように前進したかについて学ぶことに興味がありました。私は特に、かつて大規模な人権侵害を経験した場所が、過去を追悼しつつどのように復興するかを見ることに興味があります。広島でこれらの興味を探求することができ、それらの知識を広げることができました。私が最も重要だと思う気づきの一つには、日本と市の政府により、原爆投下を記憶する明確な努力があったことが含まれています。

市内にはこのような記憶が集められた多くの場所があります—平和記念公園や平和記念資料館もその例です。これらの場所で、私は原爆による被害がどのように記憶されているかを見ることができました。さらに私は、人々により共有された過去の記憶が慰霊碑などを通して、どのように表現されているかを見ました。例えば、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館にある流れる水は、原爆が落とされた時だけでなく、原爆投下後に被爆者が水を渇望していたことを表しています。

私はこれを平和公園のガイドツアーから学びました—そのツアーによって、私は平和公園とそこに立つ慰霊碑の重要性をより深く理解することができました。事前には知りませんでしたが、共有された記憶を収集する努力に興味を引かれました。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

これらの場所に加えて、原爆後に復元された場所を訪れることも良い体験でした。私のお気に入りは、それが非常に美しい場所でありながらも墓地にもなっていた縮景園でした。

広島での私の学びの経験の中で、私が最も影響を受けたと感じたのは、被爆者から聞いた証言とWFCに関わる人から学んだ情報でした。被爆者の証言を聞いて、生存者の話がいかに重要であるかに気づきました。戦争犯罪と大規模な人権侵害の余波を分析する際に最も考慮すべきことは、人々の個人的な体験だと思いました。また、WFC関係者から学んだ情報は私にとって非常にためになりました。

戦後の米国占領について多くの情報を教えてもらいました。私はこの情報を学校での研究プロジェクトで活用しているので、私が独自にさらに探求することができるこれらのトピックの概要を紹介してもらえたことがとても嬉しいです。学問での面や多くの新しいことを学んだことに加えて、私は自分自身と自身の目標についても学びました。

自己発見の旅

私の日本での時間は、個人的な転機でした。それは私の短期的および長期的な目標を形成し、人権や集団暴力に対する見解を明確にするのに役立ちました。WFCでのインターンシップを通して、非営利団体での仕事への情熱を確認できたことは、私にとって個人的に喜ばしい発見でした。私のキャリア目標は過去数年間で継続的に変わってきました。法科大学に進み、移民弁護士や公選弁護人になりたいと思い始めていました。しかし最近は、私は弁護士になりたいわけではなく、何らかの方法で人々を助けていると感じるキャリアを持ちたいのではないかというふうに感じていました。

人権、平和構築、社会正義に対して私がもっている情熱が故に、私が働くべき場所は、非営利団体や非政府組織にあるのではないかと考えました。しかし、そのような場所での労働環境がどのようなものかは知りませんでした。

WFCは、平和構築に特化した非営利業務についてさらに学ぶためのフレンドリーな空間を与えてくれました。これは、私のキャリア目標が私に最適なのだという自己確信を保つ上で重要な役割を果たしました。

WFCは通常の非営利団体とは違った側面を持っていますが、そのおかげで私は自分が何を求めているか、またその中でも特に好きな部分は何かに気づくことができました。アメリカで一般的に知られているいくつかの非営利団体と比べると、WFCは小規模であり、そのために運営も異なるかもしれません。しかし、それこそが私がセンターで最も評価した点でもあります。

WFCに関わる人々は結び付きが強く、とてもフレンドリーに感じます。私が出会ったWFCに関わる人々は、親しみを感じるよう進んで助けてくれるようでした。彼らは様々なプロジェクトで協力し、ハンナと私も仲間に入れてくれました。私たちはすぐに彼らの親密なコミュニティの一部になりました。

私が出席した英語クラスがこれの良い例です。私は自分の興味について話し、WFCに関わる人々についてもっと学ぶことができました。平和人形作りやピースクワイアといった他の活動も私に同様の機会を与えてくれました。これらの集まりを通して、私は自分の殻を破り、日本にいることだけでなく、同じ興味を持つ新しい人々に出会うことに慣れるのに役立ったと信じています。

日本に来る前に私が心配していたことの一つは、他の人とのつながりを作ることと、職場での内向的な性格を克服する能力でした。私にとって大変だったこともありましたが、それら心配事に関しては、こぢんまりとした環境で働けたおかげで、適応しながら前進することができました。このため、WFCのような職場環境や運営をしている場所が良いなということに気づきました。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

私のキャリア目標は別の面でも変化しました。今は、非営利団体の仕事をしたいというだけでなく、小さな都市の小さな非営利団体が自分に合っていると知ることができました。この気づきもあり、WFCでのインターンが自己発見の旅となり、自分自身について多くの重要な側面に気づくことができたと感じています。

結論として、WFCや広島への旅は、多くの点で私にとって他とない学習の機会でした。それは広島市についてだけでなく、自分自身についても知らなかったことを学ぶことができました。

WFCの助けがなければ、異なる方法や視点から広島とその歴史についてさらに発見することはできませんでした。また、私自身の目標についてもっと学ぶこともできませんでした。

私のインターンシップでの体験は、とても大きな意味を持つもので、人生を変えるほどの影響を与えてくれました。

IWUインターンシップの振り返り2023年夏

ハナ・グエン

最初の日から、この経験は絶え間ない新たな学びと学び直しで満たされていました。それまでは本でしか読むことができなかった話や、画面でしか見ることができなかった場面が、実際に出会う人々となり、かけがえのない思い出となりました。これが、私がここにいる理由なのでしょうか？物語が生きたものとなるために？と、私は何度も自問自答しました。

バーバラ・レイノルズが始め、進化し続ける平和活動から、特にG7サミットや8月6日の式典で意見を表明する多くの被爆者や活動家グループの現在の取り組みに至るまでを目の当たりにして、彼らの努力には目を見張るものがありました。

また、フロイド・シュモー活動や、彼のコミュニティ志向の平和活動のやり方にも非常に興味を持ちました。手柄を自分の住宅プロジェクトとして全て自分のものにするのではなく、コミュニティを作り、全てを仲間の手柄にするという彼の決断は、彼の倫理観をよく物語っていると思います。

もう一つの興味を引かれた経験は、被爆樹木のツアーでした。これら不屈の木々は、単なる沈黙の証人ではありませんでした。それらの枝は希望と再建の象徴として救いの手を差し伸べ、多くの被爆者の人生に影響を与えました。

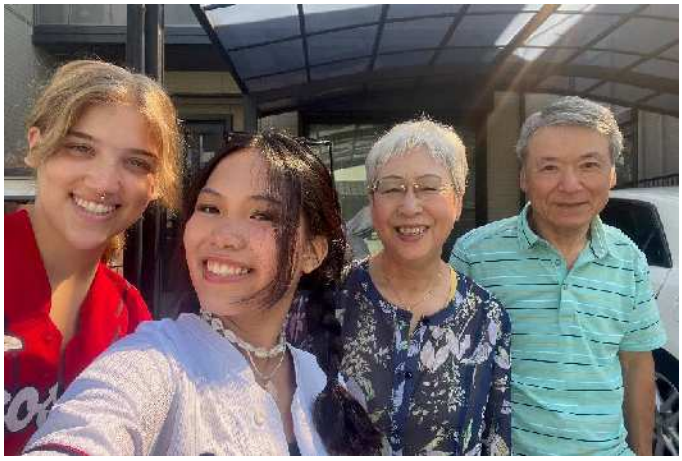
私たちのインターンシップ中に浮かび上がったテーマは、米国による日本の占領で、原爆傷害調査委員会(ABCC)/放射線影響研究所(RERF)のようさまざまな既成組織、在日米軍の配備、また、アメリカ文化の融合を通して明らかでした。特に京都や広島のような歴史的に重要な都市では、日本におけるアメリカの影響力を認識するのは難しくありません。RERFは現在二国間組織ですが、ABCCの悪名高き評判が、放影研がその過去と向き合い、正そうとする最近の努力につながりました。

しかし、RERF施設の見学をするうちに、まだ根本的な問題があることが明らかになりました。私はこの経験を非常に楽しみにしていましたが、帰る時には、もっと情報がほしいという気持ちでした。

文化に触れることも、私の学習経験に貢献しました。私は素晴らしいホストファミリーとの日常生活を通して、本格的な日本料理を楽しみ、日本の習慣や伝統についてもっと学ぶことができて感謝しています。彼らの歓迎や寛大なおもてなしは、私たちが日本で生活をするにあたって、とても助けになりました。聡子さんと真理子さんの家族は親切で、日本の文化や日常生活についてより深く理解することができました。

また、私たちは庸子さんと一緒に美味しい食事を楽しみ、書道を学び、博物館にも行きました。私は木戸先生との茶道が本当に楽しかったです。WFCコミュニティの寛大さとおもてなしは本当に計り知れません！

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず



仕事以外の小旅行については、いくつかのハプニングはあったものの、旅行と探検の時間を最大限に活用することを目標にしました。大阪の道頓堀通りや大阪城、京都の伏見稲荷や金閣寺のような素晴らしい寺院に魅了されました。

宮島への旅は、自分を感じるための静かな時間をもつ、待ち望んでいた時間でした。インターンシップの終わり頃まで宮島を散策できませんでしたが、それはとても平和で文化的に豊かであり、気分を一新するものでした。

特に、その前の週が被爆者の証言や8月6日の記念式典など、非常に重い（しかしとても興味深い）活動で埋め尽くされていましたので。

広島は、私にとって広い視野を通して多くの事が整理された、ハッとするような経験でした。原爆は人の人生を破壊し、人類の懇願を無視し、全く新たな段階の人権侵害と世界的な安全保障の不安定さをもたらしました。広島を直接体験することで、その影響をよりよく理解することができました。この旅は成長と感謝に満ちていました。

私は広島の歴史や文化についてだけでなく、自分自身についてもたくさんのことを学びました！広島の都市としての復興と被爆者の再起力は、希望の力を示す生きた証です。世界中で多くの紛争が起きているこのような時代だからこそ、私たち一人一人がより良い未来のために声を上げ続けることの大切さを思い起こさせてくれます。

平和と愛を込めて - ハナ

女学院から迎えたインターン生

マシュー・ベイトマン

今年もロバート・ドーマー先生のクラスから昨年より2倍の数の学生を迎え、女学院大学とのインターンシッププログラムを、小國桃佳さん、勝部友夏さん、齋藤桃香さん、宮本彩花さんと行いました。彼女たちは皆、WFCの活動と被爆者のメッセージに非常に興味を示しました。

小國さん：私は、WFCの歴史と精神を学びました。私はバーバラや被爆者に共感し、彼らが原爆の危険性や被爆者が経験したこと、そして今も経験し続けている現実について、どのように認識を広めたかったのかについて考えました。

勝部さん：インターンシップを始める前に、WFCの歴史とバーバラ・レイノルズについて読みました。被爆者とバーバラとの関係について強い印象を受けました。日本人でさえ被爆者の感情の深さを完全に理解するのは難しいですが、外国人であるバーバラがそれを理解しようとしています。また、原爆の恐ろしさを強く感じていた彼女は、夫との別れの後も広島に在住し、少しでも良い方向に状況を変えるように努力しました。他国の人々に広島で起こったことを伝えるのに適切な言葉を見つけるのはとても難しいので、それについて学びたいと思います。

齋藤さん：私は、WFCが58年の歴史の中で行ってきた活動について学び、また、現在の活動に貢献したいと思います。このメールを送る前に、WFCの創設者であるバーバラ・レイノルズの歴史を読みました。彼女は勇気と優しさをもち、とても責任感が強い人だと思いました。当時、他国で核廃絶に向けて活動することは挑戦だったと思います。私がバーバラについて本当に尊敬する点は、広島出身でも日本人でもないのに、広島のために一生懸命働いた彼女の優しさです。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

宮本さん：私は、平和について議論したり、意見を述べたりする機会や、平和に関連する組織で実際に働く経験が、これまであまりありませんでした。また、他国の人々と平和について話し合う機会もありませんでした。WFCでの平和活動を通じて、英語で平和をどのように表現するか、そして多くの異なる視点から平和が何であるかを学びたいと思います。

私たちは幸運にもフレンズデイのイベントで、インターンたちに会うことができました。彼女たちは、ボランティアとして手伝いをしてくれ、そこでWFCのコミュニティについてさらに学び始めることが出来ました。インターンを始める前に、さらに学んでおいてもらうため、バーバラ・レイノルズとWFCの創設に全章を捧げた「City of Silence」という本の一部を読んでおくよう彼女たちに頼みました。

インターンシップの中では、主にマラカイと一緒にWFCの平和図書の整理やSNS投稿など、進行中のプロジェクトの手伝いをしてもらいました。

8月6日の体験を話してくださった被爆者の方々、平和への願いと学ぶ意欲を分かち合うWFCへの訪問者たち、そして笑いと友情を分かち合ったイリノイ・ウェズリアン大学からのインターンたちなど、彼女たちにとって、重要なつながりを築く多くの機会がありました。

追悼の日を振り返る：WFCの8月6日行事

マシュー・ベイトマン

今年の8月6日は、恐怖と炎に記憶され、人類の新たな、また人類最終の時代を暗示する破壊と悲惨の日から78年を記念する日でした。そのような未来に抵抗するため、この78年間、希望を求める声は非常に大きく、高まっています。被爆者の核兵器廃絶のメッセージは、人類の未来への指針であり続け、また、彼らの平和への呼びかけは、今日の世界で最も重要な指針となるメッセージです。

当日の最初の行事は、平和公園での毎年行われる平和記念式典に参加することでした。この追悼の日に広島を訪れることができた7人の訪問者と共に参加しました。昨年はできなかったことだが、海外からの訪問者とつながる唯一無二の体験でした！

市長の平和宣言は、当時8歳だった被爆者の言葉を紹介し、今日の紛争との緊迫した類似性を描き、正気を取り戻し、決して悪を繰り返さないよう呼びかけました：

「核兵器を保持する国の指導者たちは、広島、長崎の地を訪ね、自らの目で、耳で、被爆の実相を知る努力をしていただきたい。あの日、熱線で灼(や)かれ、瞬時に失われた命、誰からも看取られず、やけどや放射能症で苦しみながら失われていった命。こうして失われた数え切れない多数の人々の命の重さを、この地で感じてもらいたい。」

平和記念式典の後は、アステールプラザで次のイベントを開催し、30名の参加者と国内外から数名のオンライン参加者を迎えました。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

アステールプラザでのイベントは、WFCの名誉理事長であり、献身的な平和教育者であり、資料収集家でもある森下弘先生の証言によるものでした。服部淳子さんによる熱心なスライド作成と翻訳に支えられたプレゼンテーションにより、聴衆からの鋭い質問が出されました。森下先生のお話と全世界の平和への願いは、イベント終了後、録画を通して平和を希求する人々に広く届けられました。

暑さをしのぐと同時に、イリノイ・ウェズリアン大学のインターン生による最終報告を聞く場として、WFCに駆け戻り、オープンハウスをもちました。

その後、原爆供養塔で渡辺朝香さんの指揮で「世界の命＝ヒロシマの心」を歌うため、皆さんと合流し、続いて、平和記念公園のバーバラ・レイノルズ氏記念碑で恒例の行事を行いました。今年の記念碑での行事は、私たちのテーマであった「記憶と希望」に共鳴する新しい歌や詩を取り入れた、創造性に根ざしたものとなりました。

コベントリー会の方が、被爆詩人の詩集を交代で朗読してくださり、出席者全員も輪になって詩の各段落を一人ずつ朗読しました。詩は日本語と英語とあったので、朗読するにあたってバランスをとるのが難しかったですが、みんなが一緒に時間を過ごせたことに意味がありました。

夜の灯籠流しは、コロナ禍の後、規模は縮小されたものの、私たちの平和への願いを共に流すことができ、美しく考え深い瞬間でした。私たちの、より良い世界への心からの祈りと願いとして捧げられた一つの灯籠は、団結と希望を表す力強い象徴でした。

8月6日の行事は、過去を記憶し、現在と関わり、未来への行動を喚起するというWFCのコミットメントを体現するものでした。

7月から10月まで毎月、私たちのコミュニティのメンバーが集まり、WFCで折り鶴を折りました。これらの鶴や、フレンズデーなどのイベントで折られた折り鶴は、英語クラスの窓に吊るされ、古い鶴は平和記念公園に寄付されました。折り鶴を寄付してくださった方、折ってくださった方、吊るしてくださった方、皆様、ありがとうございました！

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

平和を育むことはとても良いことです―米国PAX 2023: 10月5日～24日

ロジャー・エドマーク

10月5日、私たちは日本の広島からアメリカの太平洋北西部に４名のPAXチームメンバーを迎えました。その後の19日間、彼らは1945年8月6日に、広島で何が起こったのか、そして原爆と放射線が、その後どのような影響を与えたのかについて知りたいと願う1,100人以上の人々に話をし、講演やプレゼンテーション、そして読み聞かせを行いました。

これらイベントの計画は、彼らがANAの飛行機から降りる数ヶ月前から始まりました。どこに滞在するのか？どのように移動するのか？イベントを計画するために誰と連絡とるべきか？彼らはここで何を見たいと思っているのか？どんな物を食べたいのか？ロジャーとキャシー・エドマーク、マイクとキャロル・スターン、ラリーとジョアン・シムズ、および彼らの息子カイルは、PAXメンバーをエドマーク家とシムズ家でホストし、様々なイベントと活動満載のスケジュールを提供するために、これらの質問に対する答えを一生懸命考えて計画しました。

キャシーと私は、4人のメンバーのうち壮さん、民さん、真理子さんの3人を知っていました。2019年8月から2022年3月まで、ワールド・フレンドシップ・センターで彼らの英会話クラスの教師をしていたからです。私たちはその期間、WFCで館長を務めていました。彼らと再会できて、とても嬉しかったです。4人目のメンバーである優子さんとは、出会った瞬間から打ち解け、楽しく陽気な彼女との時間も楽しむことができました。

私たちは、ワシントン州とオレゴン州の両州の一部訪問を含む19日間の全スケジュールを計画しました。フットボールの試合観戦や、スペースニードルの頂上や公園、展望台に行ったり、都市アートや博物館を見たりする楽しい時間もありましたが、PAXメンバーの旅の目的は、原爆を投下された人々、そしてその土地が受けた影響について、明確なメッセージを届ける機会を提供することでした。

それぞれのPAXメンバーは、プレゼンテーションや読み聞かせ、個人的なエピソードなどを通して、聞き手の年齢に応じた様々な形でメッセージを伝えてくれました。

話を聞いた多くの人々にとって、広島で何が起こったかについて聞くのはこれが初めてで、話を聞いた後、彼らは何を言っていいのか分からなくなることがしばしばでした。会の後、ある女性がやってきて、彼女の母親は日本人だが、PAXメンバーの話を聞くまで、きのこ雲の下で何が起こったのか知らなかったと言い、彼女は涙を浮かべながら、「とても申し訳ない」と言われました。大人たちからの反応は、これがある程度一般的なものでした。しかし、読み聞かせを通して初めてこの話を聞いた子供たちからは、多くの好奇心旺盛で豊かな質問が聞かれました。いくつかの学校のクラスでは、クラス終了後にPAXメンバーが子供たちや若者たちと話す機会があり、とても興味深く活発な会話ができました。

何ヶ所かについては、コーディネーターたちと以前に接点のなかったグループに連絡を取りましたが、訪れたほとんどのイベントやクラスは、私達がすでに持っていた友情やつながりから生まれたものです。私にとって、これはWFCのモットーである「一期一会が平和を築く」という言葉に象徴される、人と人との繋がりの価値を示す一例です。

PAXメンバーがあるグループに会う度に、たとえその日に講演やプレゼンをしなかったとしても、共に過ごしたその1、2時間を通して友情の種が蒔かれました。子供たちにとっては、地球の裏側から来た4人の話を聞き、対話をすることで、彼らの世界は広がり、彼らの中に平和の種が蒔かれたのです。それは本当に素晴らしいことです！

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

米国オレゴンで語られたお話

ジョアン＆ラリー・シムズ

堀江壮さん、岡原民幸さん、大澤優子さん、砂脇真理子さんを迎えることができたことは光栄でした。WFCからの４名をオレゴン州まで運転してきてくださった、ロジャー・エドマークを迎えることができたのも、また特別な喜びでした。私たちは皆、トロールハウゲンと呼んでいるわが家に滞在しました。息子のカイルは必要に応じて通訳を手伝ってくれ、日本語での訪問を楽しんでいました。日本語の日常会話を再び使うことができて素晴らしかったと言っていました！

壮さんとの再会は、彼が2006年にシアトルを訪れた時に初めて出会ったことを思い出させてくれました。彼の情熱的な話と平和の心を再び聞けることは、個人的な喜びでもありました。イチローがシアトル・マリナーズでプレーするのを見たことや、壮さんが私たちを広島で野球の試合に連れて行き、そこで広島カープの帽子を手に入れたことなどを思い出して、笑いました。ラリーは民幸さんと再会できたことが嬉しく、WFCでの「男性クラス」での思い出を話しました。

真理子さんと出会い、彼女の被爆者差別に関する個人的な体験を知ることは、多くの人にとって新たな気づきとなりました。優子さんのテレビ業界や広島市図書館協議会での経験は、話を聞いた全ての人にとって、原爆投下当時の子供たちの話を学ぶのに役立ちました。彼女の専門知識によって、大学の教育学部の学生たちは、このようなトピックでも若い学生たちと共有することが可能であるということを知ることができました。

WFCのモットーは「一期一会が平和を築く」です。彼らは、事前に準備したそれぞれの短い話をしただけでなく、その後、多くの聴衆と話しをしました。特に友情が芽生え始めたのは、そのような非公式な時間にでした。

平和の種が蒔かれたのです。リンフィールド大学の図書館では、何名かの日本からの交換留学生が、彼らの話を聞き、質疑応答で彼らとの話合いが持てたことを喜んでいました。WFC PAXメンバーは、また、2つの別の教会の集会でも話をし、温かく受け入れられました。ブレザレン教会のビデオプログラムがPAXメンバーにインタビューをし、近い将来WFC PAX訪問についてのプログラムを制作する予定です。

オレゴンでの時間は、そのすべてが仕事というわけではありませんでした。金属彫刻家を訪問し、彼の妻が描いた素敵な絵を見る時間もありました。80%の日食を見られるかと期待していましたが、残念ながら空が曇っていました。しかし、リンフィールド大学のフットボールの試合を観戦することができました。ルールやアクション、スコアについて説明してみるのも楽しかったです。皆で美しい時間を過ごしました。笑い、学び、そして平和の種を蒔いた思い出は、2023年WFC PAX訪問のおかげで、これからもオレゴン州に残ることでしょう。

2023 PAX 報告書

堀江壮

この度で3回目、PAXに参加させていただいたこと心より感謝申し上げます。多くの方々に支えられ、親切にしていただき無事帰国することができました。

ロジャーさん、キャシーさん宅。ジョアンさんラリーさんカエルさん宅両方とも館長さんとして日本でお会いしてましたので 快適に過ごすことができました。なかでもカエルさんの料理の腕には感心しました。私もあさご飯は毎朝作っていますがとてもかないません。大変おいしくいただきました。ありがとうございました。

最初に羽田空港で、トイレに行き皆さんが待ってくれている場所を忘れてしまい、出発する場所へ行ってしまったため大変ご心配をかけ、申しわけありませんでした。あちらの空港に着いたら、空港での検査は以前よりはるかに簡単に済みました。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

最初のホームステイ先ロジャーさん宅へ行く途中見たのは、道路わきに建てられた沢山の簡易テント、ホームレスの人たちが住んでいるとのこと。以前東京でも見たことがありましたが、あそこは公園の中。トイレも水道もありました。豊かな米国の一面を見ました。

ハロウィンの前で、家々の前には様々な飾りがありましたが、骸骨は私には奇妙に思えました。さすがは車社会米国、広い広い道路にはたくさんの 車でいっぱい。その中でトヨタ、日産、スバル、本田、マツダ、日本車がたくさん見られました。でもいつの日か化石燃料はなくなるはず、その時米国の交通はどうなるのか、他人事ながら心配になりました。鉄道は貨物のみだし、電車は工事中でした。

証言をさせて頂いたときのキャロルさんの段取りの良さには愕きました。幼稚園、小学校、中学校、高校。大学、教会、さまざまな場所で次から次へ、たくさんの機会を与えてくださいました。おかげさまでお土産で持参した桜鉛筆は全部なくなりましたが、マラカイさんに内容を見ていただいた、なぜ私たちは戦争・紛争を止めねばならないかとゆうプリントは途中でコピーしていただいて参加者全員に配ることができました。私の考えにご自分の意見を加えて、ご家族や友人にお話しくださいと最後を締めくくりました。原爆の悲惨さを話すだけでは戦争 ・紛争はなくならないと思います。

最初のPAXは4人、次は12人、今回は4人の参加者でした。4人くらいが適当と思い ます。今回は被爆者2人が被爆体験を話し、女性お２人が絵本の読み聞かせを年少者にされました。大変よかったと思いました。

たまたま旅行中に私に誕生日があり、マイクさんキャロルさん宅でお祝い会をしていただき感激しました。私の幼少期は家が貧しく誕生日をお祝いしてもらうことは全然あり ませんでした。夏には米国から来られるんですね、どんな話をされるのか楽しみです。

また、どんなおもてなしをすれば喜んでいただけるか考えております。

2023年のアメリカPAXを振り返って

岡原民幸

ロジャー、キャロル、ジョアンさん達に計画して頂いた１０月５日～２４日の我々のPAXを振り返って見たい。毎日の日程は確定した都度、広島のWFCにも送られたと思います。

１．彼等が設定したスケジュールは完璧でした。先ず、証言活動の対象先は小学校、中学、高校、大学を総て適切に網羅していた。加えて教会やコミュニティーの集会グループも加わっていた。次に学校でのタイムスケジュールは５０分で２つのプレゼンが設定され、無駄が全く無かった。＊彼等のスケジュール調整と案内で小、中、高、大学と教会及びコミュニティの１７か所を訪問して、３０クラスを超えるプレゼンテーションをすることができました。２０分と限られたプレゼンテーションで、効果は充分であるかは自信がありません。

２．我々のプレゼンテーションの効果、反応については；客観的な総括として11月７日にロジャーさんから届いたメッセージを原文のままで紹介します。

（日本語訳）「とても忙しい19日間でしたが、あなたや他のメンバーにとって、ヒロシマの話をし、人々に会うとても重要な機会でした。あなたが話した人たちのほとんどは、広島に行くことはないでしょうから、原爆の惨状や放射線が人々に与える影響について聞ける唯一の機会でした。それは彼らにとって忘れられないメッセージであり、核兵器は私たちの世界に必要ないということを理解するきっかけになることを願っています。」

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

3. 私のシアトルでの思い出

① １０月１９日　シアトルでの集会「プラウシェア・カンファレンス」(The Ploughshares Conference Public Event in Seattle) に招待参加した。堀江壮さんの２０分プレゼンの後、我々４人のメンバーは夕食会とパネルディスカッションに招待された。全米各州からの委員達と話し合いができた。

② １０月１５日　ワシントン州日本文化会館で、ワシントンの社会的責任医師会(WPSR: Washington Physicians for Social Responsibility)と日系アメリカ人市民同盟(JACL: Japanese American Citizens League)の集会に招待されPAX メンバー４人がプレゼンし、質疑応答を行った。会員から我々に質問が出た。“WFCの今後の活動方針は？” 私は次のように回答した。。

（日本語訳）「我々の希望、目標は核兵器の廃絶です。しかしながら、今の世界情勢は大変厳しい状況にある。核兵器の使用による脅迫はプーチン、中国習近平、イスラエル、北朝鮮 がおこなっている。多くの世界のリーダーは嘘を言うことが多く、正義が見当たらない。私は如何にして核兵器の使用を止めることが出来るかが喫緊の課題だと思う。今の様な政治的混乱の下では市民のパワー。市民の活動が非常に重要だと思う。共に頑張りましょう！！」

4. 私のオレゴンでの想い出

① １０月１５日　我々は２つの教会を訪問した。第一長老教会と第一バプティスト教会で４人のメンバーが話をした。終了後数人の教会の婦人達が眼に涙ためながらハグをして別れたのが印象的でした。

② 10月１６日　リンフィールド大学で４人のプレゼンテーションの後で大学長のマイケル・デービス博士が校内食堂に招待してくれ、ラリー、ジョアン、ロジャー、カイルを交えて会食した。大学長は“空手道”のカルフォルニア州チャンピオンで、私の嗜んだ“合気道”を日本武道の１つとして良く理解していて、“日常生活の中での正義の重要性”に共鳴した。ハグをして別れたのが印象として残った。

最後にWFCのスタッフ、PAX委員会に感謝します。5回の事前ワークショップとアドバイスのお蔭で良い準備ができました。そしてアメリカのホームステイ先の御もてなしと完全なスケジュール調整にも感謝申し上げます。

ロジャー＆キャシー、ジョアン＆ラリーのご家族に重ねて御礼申し上げます。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

2023 PAX 報告書
大澤優子

PAXに参加させていただくことが決まっても、私の場合は平坦な道のりではありませんでした。プレゼンテーションのテーマを「はだしのゲン」にしたものの、どこまで内容を掘り下げて行くべきか悩む日々が始まりました。さらにつまずいたのは、夫の理解を得られないことでした。そもそも私自身がワールド・フレンドシップ・センターやPAXのことをきちんと説明できないことが一番の問題だったのですが、ホームページを見せても懐疑的にしか見てもらえません。どうしたものかと思い悩んでいたある日、そんな夫が突如として変貌する出来事が起こりました。

朝刊にワールド・フレンドシップ・センターの活動を紹介する記事が大々的に掲載されたのです。それを読んだ夫は、「絶対に行くべきだ」と言い始めたのです。一方プレゼンテーションは出発直前にまでもつれ込みましたが、WFCのスタッフの方々の手助けや、別人のように協力的になった夫のお陰で何とか間に合わせることができました。

私にとって30年ぶりのアメリカに降り立つと、浦島太郎になったような気持ちになりました。それと同時に懐かしさに胸が震えました。しかし、以前のようにただ住むのでなく、平和交流使節と言う重大な任務を担っていると思うととても緊張しました。

三週間ほどの滞在中にワシントン州のシアトル、オレゴン州のマクミンビルと移動しましたが、元館長のエドマークご夫妻やシムズご夫妻のお陰で、これ以上はないと言うほどの快適な日々を過ごさせていただきました。

そして何より嬉しかったのは、学校や大学、教会やコミュニティーセンターなど訪れた先々で、現地の方々の平和に対する熱い思いに触れたことです。

スタッフはじめ日米両国の多くの方々に支えられてこの交流を無事終えられたことを改めてお礼申し上げます。そして、道中を共にさせていただいた最高のPAXメンバーの方たちにも。

本当にありがとうございました。

2023 PAX 報告書
砂脇真理子

2023年アメリカ平和使節団の一人としてU.S.のシアトル・オレゴンに20日の旅をしてきました。

一番印象に残った学校はハミルトンミドルスクールでした。アメリカの学校は安全管理が厳しく、受付で許可書をもらわなければなりません。広島から来る高齢者のために先生と生徒がマスクをかけるか？話し合いをしたそうです。

生徒達から「マスクをつけよう」という意見が出たそうです。生徒たちの感想を、貴子先生がコーディネーターのキャロルに預けてくれました。生徒たち87人と貴子先生の手紙を振り返ってみたいと思います。

知らないことを知れてとてもよかったです。広島に原子爆弾が落とされ多くの人が亡くなったのは、とても悲しいと思いました。平和の大切さが分かりました。今後絶対原子爆弾は使ってはいけないと思います。原子爆弾のことを他の人に伝えたいと思いました。はだしのゲンの映画をみました。

私達への感想、要望は、日本から遠いシアトルまで話をしに来てくれて有難う。世界にもっと原子爆弾を使ってはいけないと言ってください。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

着物

　シアトルに行くとき着物を持っていきました。重くて、かさばるトランクの1/３をしめました。しかし、プチ礼装のパーティーに着ていくのに便利でした。失礼にならないし、話題性もありました。街中では、みんなが笑顔で見てくれました。ときには話しかけてくれました。「母が昔浴衣を着ていたの」とか。オレゴンでジョアンと私が明日教会のプレゼンに「何を着ていこうか」と話をしていました。

　「わたしが着物着て行こう」と言うとジョアンも私も「着物にするは」というのです。私は目が点になりました。誰がきせるの？持ってきたのは黒留袖で作ったワンピースでした。「日本からのプレゼントなの、着る機会がなかったので嬉しい」と笑顔でした。次の日ワンピースの上にカジュアルなベージュ色のジャンバーを羽織っていました。そう来たかと思いました。

物価の高さ

　私たちがシアトルに行ったとき1ドル￥151、円安でした。スペースニードルとチフリ美術館入場料がシニア割引で￥8283、小さいサイズのフィシュとチップス が￥3000超えでびっくりしました。おまけに大きさもビッグで1/4は捨てました。

ハロウィン

　私達がシアトルをさる次の週の日曜日がハロウィンでした。ホームステイ先の近所の庭には装飾がされていました。子供は装飾のある家に訪問して良い事を初めて知りました。外灯を消してある家には行ってはいけないそうです。

航空博物館「ミュージアム・オブ・フライト」

　コーディネーター のロジャーはボーイング社に長年勤めていました。私達が「見学に行きたい」と伝えると連れていってくれました。家から車で10分位でとても近かったです。私たちが羽田から乗ってきたボーイング747は2023年で就航を終えて2024年からはさらに大型化して777になるそうです。野菜や廃油を利用して飛ぶ持続可能な飛行機も作っているそうです。空調にも注意を払っていて感染しないよう考えられています。第二次世界大戦の時、男性が戦争に行っていたため女性が戦闘機を作っていたそうです。伝説的女性工員も出てきたようです（ロージー・ザ・リベッター）。アメリカの戦闘機ムスタングはＯ戦をはるかに超える運動性能、速度703㎞の攻撃力を備えていました。

　一方、Ｏ戦は軽量化の為機体が脆弱で、防御をおろそかにしていました。速度565ｋｍです。流石資源のある国は違います。日本は何故こんなに巨大な国と戦ったのだろうと思いました。

スペースニードル

　1962年万国博覧会の時建てられた184ｍの塔です。

　訪れた日、風はあったのですがよく晴れていました。360度の大パノラマ、シアトルの風景マウントレーニア、海、お洒落なビルが堪能できました。屋根にハロウィン の蜘蛛の絵が書いてあるビルもありました。展望台の下の階は床がガラスばりで360度回転するのです。東京スカイツリーは一部だけがガラスばりですが、ここは床全体です、怖くて堪りませんでした。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

2023年度国際フェスタ

委員長　三村庸子

２０２３年度の国際フェスタには昨年に続き世界の屋台と、今回初めて活動紹介コーナーに参加しました。世界の屋台では、独特のシーズニングで味付けをしたひき肉のサンドイッチ『スロッピー・ジョー』を提供しました。挽き肉と玉ねぎなどの野菜をケチャップやウスターソースなどで味付けして、バンズに挟んで食べるアメリカでは定番の家庭料理。

前日から野菜を切り、ひき肉と練って・・・と下準備が大変でしたが、当日はバンズを焼いて、用意していた挽肉に火を入れ挟み、WFCマークの入った小旗を飾って（お子様ランチを想像してみてください）お客様に提供しました。WFCに関わりを持ってくださっている人たちや、広島女学院大学の学生たちがボランティアで手伝いに来てくれて、売り上げに貢献してくれました。

活動紹介コーナーではマラカイ館長が来場者と話をし、英会話クラスに興味を持ってくれた方もいました。また歴代館長たちの写真を展示し、担当にあたった理事の人達が、WFCの歴史や、活動の様子を紹介しました。昨年秋に、アメリカPAXの代表団が訪米したばかりだったので写真を見せながら、アメリカでの証言活動などの説明もしました。

ご協力いただいた皆さま、WFCの屋台や紹介ブースを訪れてくださった皆さま、本当にありがとうございました！

2023年「イスラエル-パレスチナ危機の衝撃」とWFC

服部淳子

2023年10月7日、突然このニュースが世界に衝撃を与えました。
「パレスチナ暫定自治区のガザ地区を実効支配するイスラム組織ハマスが『突如』、イスラエルへの攻撃を開始した。」

イスラエルは同日反撃を開始、大規模な空爆に続き、地上作戦を展開。以前から施設が整っていなかった被占領地のガザの基幹病院は、ハマスの地下拠点があるとされて攻撃対象となり、（病院への攻撃は国際法で禁じられています）アル・シーファ病院のように多くの患者や医療従事者も犠牲となりました。そして民間人の犠牲者の多くは子どもたちです。13日から毎晩原爆ドーム前での留学生・市民有志のビジルが始まり、金曜は市民集会が開かれるようになりました。広島の市民社会から虐殺を止めようと声を上げ、11月11日ＣＳＯアライアンス「ストップ！虐殺 in Gaza」が立ち上がり、ＷＦＣもその呼びかけ人の一団体となりました。

現地で何が起きているのか？この紛争を解決し、民間人の虐殺を止めるには、紛争の要因を学ばなければなりません。WFCとして考え、対話し、行動するにも、よく現地のことを知り、何が平和のために必要か、市民が聞くことができ、話し合える場所が必要です。WFCは市民にその必要な場を提供することができると考えました。

そこで最初の企画として、中東地域の専門家から今回の紛争の背景と基本となる情報を聞く市民向けの講演会を11月28日に広島市留学生会館で、広島大学大学院人間社会科学研究科の溝渕正季先生を講師に招き、開催しました。市民と留学生５０人の参加がありました。お話からたくさんのことを知った中で、植民地支配と人種差別によって引き起こされたこの危機が、『突如』ではなく、100年以上にわたって続いていることを学びました。。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

12月20日前後等、冬季の特に寒かった数週間ほど、ＷＦＣは原爆ドーム前に自発的に集まる市民や留学生（その頃にはＨＰＶＣ：広島パレスチナともしび連帯共同体と名付けられていました）に講演会や有志で頂いた寄付金を許可頂いた上で、カイロ、暖かい食べ物や飲み物をキッチンで作って配布。ビジル参加者から美味しい、温まると好評でした。

2番目の企画は、ビジルにほぼ毎日参加しHPVC調整役の一人でもある館長のマラカイさんがどのような想いでビジルに立っているか、直接話を聞いてお話するという場を持とうと、1月24日WFCコミュニティを対象に行いました。WFCの居間を会場に定員いっぱいの20人が参加。マラカイさんも資料を準備して臨みました。

11月24日からの4日間の休戦を除き、その後も市民の運動の国際的な広がりにも関わらず破壊と殺戮が現在も続いています。人類が歴史から洞察を得て、この長引く紛争から平和を共に紡ぎ、二度と暴力に戻らない状況を築けるように一歩一歩活動を続けたいと思います。

シュモーハウスを訪れて

兼綱寿美子

シュモーハウスは何度か行ったことがあるのですが、今回の訪問も有意義なものでした。

今回は8月18日にWFC館長のマラカイ、美喜子さん、美智子さん、庸子さん、真理子さん、寿美子の6人が参加しました。

私たちWFCガイドの一行は、まず建築当時の材質のままの壁面が保存されている外壁を見学しました。竹と土壁でできた昔ながらの壁なので、今の若い人たちが見たら驚くと思います。館内では、美喜子さんがフロイド・シュモーの功績を説明してくださいました。

米国のフロイド・シュモー氏は広島・長崎への原爆投下に心を痛め、募金活動をして住まいを失った広島の人々のために江波に21棟の家を建てました。1949年にシュモー氏ら一行は広島に到着して、大工の棟梁一人を雇い、社会人や学生ボランティアの協力も得て「広島の家」を建てました。江波山に建てられたコミュニティハウスは現在「シュモーハウス」として保存されています。

また、館内には、原爆で荒廃した広島に救いの手を差し伸べたシュモーさん以外の人々のパネルも展示されています。

訪問者は、ノーマン・カズンズの精神養子運動や、25人の原爆乙女の渡米治療、バーバラ・レイノルズの平和巡礼とワールド・フレンドシップ・センターの設立について知ることができます。

私がガイドを始めたきっかけは、WFCのチャールズ＆メアリー・アン・アルバート夫妻がピースガイドプログラムを始めたときに誘われたからです。広島を訪れる外国の人たちに広島の被ばくの歴史と原水爆禁止運動の話をすれば、平和にも役立つし、英語の勉強にもなると思ったからです。

でも普通は平和公園内のモニュメントの案内をするので、シュモーハウスまで案内することはありません。けれどもより多くの人たちがシュモーハウスを訪れて、シュモーさんのような博愛精神の持ち主がいたことを知ってくださると良いと思います。シュモー氏のことを描いた「シュモーおじさん」という絵本は、優しい緑の表紙で、平和の大切さを教えてくれます。

若者や子供たちにも、平和の大切さを伝えていきたいものですね。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

ホリデーパーティー

清水美喜子

２０２３年１２月１０日（日）、１４時～16時まで、広島留学生会館において、WFC恒例のホリデーパーティーを開催いたしました。参加者は、リラックスした楽しいひと時を分かち合うことが出来、皆様お互いに楽しい時間を過ごしました。

当初は、多くのコミュニティ、海外からの訪問者等の出席を予想しておりましたが、当日は、それぞれの団体が年末の行事を持たれており、参加がかなわなかった方がたくさんいらっしゃいます。それでも、WFCのメンバーをはじめ、一般の有志参加者、子どもさんを含め、５０人弱の人たちが集い、皆で楽しく歌い、ゲームやいろいろな余興を楽しみ、お互いの友情を培いました。

今年は、生け花風の折紙オーナメントのクリスマスツリーが数か所に飾られました。折り紙の折り方の指導などもあり、落語も披露されました。これらは、日本人によるものではなく、アメリカ人の館長であるマシュー・ベートマンによるものなので、ひときわ注目を集めました。

クリスマスキャロルも、最初にピースクワイアーが一曲を歌いました。ただ、クワイアーのメンバーが少なかったので、会場から３人が飛び入りで加わって合唱を盛り上げてくださったのは、感激的シーンでした。その後は、全員で一緒に歌うという新しい方法を試みました。最後は「蛍の光」で締めくくりましたが、やはり、全員で歌う歌もピースクワイアーにリードしてもらう方が良かったというご意見が多くありました。

じゃんけんゲームには、全員が参加し、部屋の中を皆が動きまわれる楽しいひとこまでした。和服のロングベストを羽織った大正琴の演奏も素晴らしく、会場の雰囲気が明るくなりました。クイズの提供も、皆さんが一体になって、楽しめました。

アメリカ人の館長、マラカイ・ネルソンのユーモア混じりのウクレレ演奏を、小さな子供たちがとても喜んでいました。アメリカPAXの報告は、後日、詳しい報告会があるため、今回は簡単な説明となりました。

パーティーでは、いつもの知鶴子さんの手作りクッキーが配られ、参加者が帰る時には、ゆき子さんの手作りのアクセサリーが全員にプレゼントされました。

マラカイと聡子さんとの名コンビの司会のおかげで、パーティーが素晴らしいものとなり、成功裏に終わりました。

会場を離れる前に、ゲストはCPT（Community Peacemaking Teams）を通してパレスチナの和平への活動を支援する寄付金を寄せてくださいました。

皆様のご協力で、後片付けもすんなり終わり、ゲストの方々は、「楽しかった！」　と言って帰途につかれました。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

「被爆者の肖像：80年を記憶」プロジェクトへの協力

マシュー・ベイトマン

9月下旬、WFCはスティーブ・リーパーを通じて紹介された、英国ウェストミンスターのジーナ・ラングストンとパトリック・ボイドの興味深いハイテクなポートレート写真プロジェクトをに協力しました。

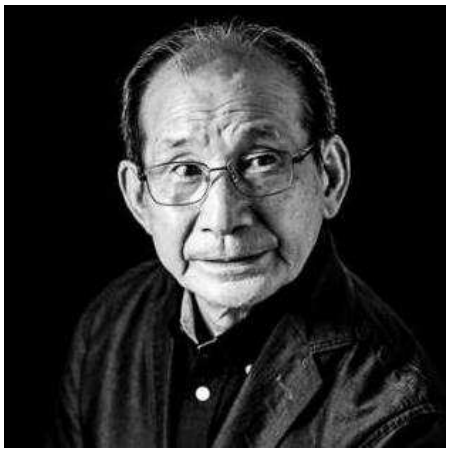
彼らのプロジェクトは次のように説明されています：

> *2023年に「被爆者の肖像: 80年の記憶」というプロジェクトのため、広島、長崎、神戸、トロントを訪問しました。今後も、世界中の核実験の被爆者にスポットを当てたプロジェクトを続ける予定です。核兵器により私たちが生存できなくなる前に、私たちはこの世界から核兵器を廃絶しなければならない、という前向きなメッセージを多くの人々の力で訴えていきます。*

ジーナ・ラングストン：彼女は2013年に、広島市立大学大学院の平和学研究科で学ぶため初めて広島を訪れ、それをきっかけに彼女の人生は大きく変わりました。

パトリック・ボイド：彼はロイヤル・カレッジ・オブ・アートではパルスレーザーを用いて、そしてラフバラー大学ではニック・フィリップス博士のもとでマルチプレックス・レンチキュラー・ホログラムシステムを用いて、世界で最も有名なパルスレーザー・ホログラフィー・ポートレートをいくつか製作しました。

写真は許可を得て使用しています。



Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

第3期　平和公園ガイド学習会

清水美喜子& マシュー・ベイトマン

3月30日、第3期平和公園ガイド学習会プログラムを終了いたしました。私たちは多くのことを学び続け、WFCグループに初めてかかわられ、素晴らしいガイド能力を秘めた多くの人たちに出会ってきました。これは、WFC に人々を歓迎し、バーバラの物語を紹介する素晴らしい手段となっています。

参加者のいくつかのコメントを紹介いたします:

- *オンサイトトレーニング（現地研修）はとても良い経験でした。*
- *勉強不足を痛感しました。*
- *またオンサイトトレーニングに挑戦してみたいです。*
- *実際のオンサイトトレーニングはとても有意義でした。*
- *お陰様で、だんだんと馴染んできました。原稿は非常に良く構成されており、有益です。*
- *覚えにくいのですが、今日は外で練習して、実際の雰囲気をつかみことが出来て良かったです。*
- *楽しかったです。ゲストの顔を見る事が大切だということに気づきました。*

今回のプログラムの終わりにあたり、今のところ3期にわたって25人以上の参加者があり、平和公園の29の碑の原稿を作成、共有いたしました。今もなお、その方たちをWFCガイドグループに迎え入れるための軌道づくり作業を行っております。

第4期は、7月6日からスタートする予定です。もっと学び、WFCグループに加わって下さるお友達をぜひ紹介してください。

翻訳クラス

畑本ひさの＆マシュー・ベイトマン

隔月金曜日の午前中に開催される翻訳クラスは、様々な日本語資料を英語に翻訳してきた32年間の歴史があります。これまで関わってこられた方々の多大な努力には頭が下がります。

生徒の畑本さんから：

私たちはこれまでにさまざまな作品を翻訳して参りました。その中には、被爆者の方のお話や絵本、バーバラ.レイノルズさんについて、平和教育についての話、また広島平和カレンダーなどがあります。数冊の本も訳しましたが難しくて数年を要した物もありました。活動の方法は、メンバーが訳すページを振り分けて順番に家で訳しプリントアウトしてきます。クラスでは日本語と英語の両方を読み上げてみんなでチェックし話し合います。中でも一番無くてはならない人が館長であることは言うまでもありません。彼は適切な英語になるように直して下さったり、いつも的を得たコメントをして下さり、私たちの活動には必要不可欠な存在です。

もともとは、様々なストーリーをより広く伝えるためのボランティア・プロジェクトのようなもので、翻訳されたものをウィルミントン大学に送っていました。現在は、被爆者の実体験に基づいた証言の翻訳に取り組んでいます。

細かい情報を必要とする生徒からの質問により、英語指導者として私が知っていること、説明できることの限界が本当に広げられます。原爆投下後、数時間から数日の間、わが子を探し求める親たちの話を通して、私は心を揺さぶられ、あの日の出来事にこれまでで最も深い関わりを持ちました。

これは、ここで経験した中でも、私にとって信じられないほど重要な一部であるように感じており、生徒たちも同じように感じてくれていることを願っています。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず

ワールド・フレンドシップ・センターについての振り返り

ロン・クライン
退任される理事

WFCへの関わりを数えるとき、私はエドワードとベスがいた南区の家から始まり、今まで出会った館長たちによって、その年数を数えることができます。WFCのリビングルームの壁に並んでいる元館長たちの写真を見たり、名前を思い出したりすることで、彼らとの会話や共有した時間の思い出がよみがえります。控えめに言って25年としましょう。私は10年前の、ちょうど50周年記念行事とファンドレイジング委員会の時期に理事になりました。私の振り返りは、その間に何が変わり、何が変わらぬままあるかに思いをはせます。

最も重要な変化は、現在の東観音町の家への引越しでした。以前と同じように、伝統的な日本の家の家庭的な雰囲気を維持しながら、新しい施設は古い建物がいかに手狭であったかを示しました。別棟のアネックスも使用することになり、クラスの提供やゲストの受け入れを増やすことができました。コロナウイルスが発生する最近まで、私たちは年間1000人のゲストを受け入れていました！

2015年の50周年記念行事では、バーバラが私たちに「一期一会が平和を築く」と呼びかけて以来、いかに長い年月を生き抜いてきたかを振り返ることができました。近年、私たちはよりコンピュータに精通し、ソーシャルメディアでのアウトリーチも行っています。定款更新やハンドブックの作成により、より団体として組織化されました。その後、コロナウイルスが流行し、私たちは収入の減少に直面すると同時に、宿泊客に宿を提供することについても疑問が生じ、自分たちの使命を見直す必要に迫られました。WFCの未来は、理事会がこれらの変化の問題をどう解決するかにかかっています。

一方で、WFCの強みは常に献身的な理事会メンバーです。一部のメンバーはバーバラを知っており、彼女の情熱を持ち続けています。一部のメンバーはもう私たちと共にいませんが、最後までWFCに奉仕されました。時代が変わり、館長が変わっても、ワールド・フレンドシップ・センターの精神は変わっていません。それは、世界中から訪れる人が、被爆者の証言や平和公園ツアーを通して直接平和について学ぶことができる場所です。また、滞在する一日、二日の間、広島の体験の一部として、温かさと親睦を感じることができる家なのです。

60周年を迎えるにあたり、私はWFCが新しい役割と新しい場所を見つけるのを見守ります。私は理事を退任しますが、WFCへの強い関心を持ち続け、できる限りの貢献をします。

2023年も多くの方々がボランティアとして様々な形でWFCを助けてくださいました。また、国内外の多くの方からご寄付もいただきました。心より感謝申し上げます。

Copyright © NPO World Friendship Center 2024 All Rights Reserved | 無断転載、複製を禁ず